

コーパスを活用した 日本語教師のための 類似表現調査法

砂川有里子

◆要旨

日 本語教育では、意味や使い方の似通った類似表現の使い分けを知ることが求められるが、辞書や参考書を調べても分からないことが多く、日本語教師が自力で分析する力を身につける必要がある。本稿は、効率的に類似表現の使い分けを調べる方法として、コーパス検索ツールを使った類似表現調査の方法を紹介する。まずは、レキシカルプロファイリングを活用した実質語の検索ツールであるNINJAL-LWP for BCCWJの使い方を示し、「冷える」と「冷める」について分析する。次に、コンコーダンスを活用した機能語の類似表現調査として、『中納言』の使い方を示し、複合辞のニツレテ・ニシタガッテ・ニオウジテについて分析する。

◆キーワード

コーパス、類似表現、実質語、機能語、レキシカルプロファイリング、コンコーダンス

◆ABSTRACT

Though learners of Japanese language are expected to know the difference in meaning and usage of synonymous expressions, dictionaries and other reference material do not always provide adequate explanations, making it necessary for Japanese language teachers to know how to analyze synonymous expressions. The aim of this paper is to introduce an efficient way to examine the meaning and the usage of synonymous expressions that utilizes corpus search tools to analyze sentences retrieved from BCCWJ (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese). First, I will show how to use the lexical profiling tool, NINJAL-LWP for BCCWJ, and analyze the difference between lexical synonyms: HIERU and SAMERU. Next, I will show how to use CHUUNAGON; a concordancer for BCCWJ, and analyze the difference between functional expressions: NITURETE, NISITAGATTE, and NIOOJITE.

◆KEY WORDS

corpus, synonymous expressions, lexical words, function words, lexical profiling, concordancer

A Corpus-based Method to Examine Synonymous Expressions for Japanese Language Teachers

YURIKO SUNAKAWA

1 はじめに

山内 (2013) は、日本語学習者の誤用と教師の訂正後の正用の表現が、互いに類似の関係になることに触れ、「すべての日本語教師が実質語の類似表現研究を行うべきである」と主張している (p.8)。本稿は山内のこの主張に賛同し、実質語のほかに機能語も含め、日本語教師が類似表現の問題に直面したときに、自力で解決できる効率的な方法として、コーパス検索ツールを使った語彙調査の方法を紹介する。

ところで、類似表現の研究で最も重要なことは、その表現がどのような環境で用いられるかを突き止めることにある。類似表現が相互に似通った意味を表し、同じような用法を持っていると感じられても、それらが用いられる環境を注意深く観察すると、かならず何らかの違いに気付くはずである。そのときの観点としては、それらの表現が用いられるジャンルが同じかどうか、それらの表現を用いる場面や、話者と聞き手の社会的な関係が同じかどうか、それらの表現がどのような文法的な振る舞いを見せるか、他のどのような語とともに用いられることが多いかなどの情報が重要なものとなる。ここでは、山内と同様に、それらの語が他のどのような語とともに用いられ、それによってどのような意味を表すのかという問題、即ち、コロケーションの問題に焦点を絞って述べることにしたい。

以下においては、コーパスを活用した類似表現に関する調査法として、2節においてレキシカルプロファイリングを活用した実質語の調査法、3節においてコンコーダンスを活用した機能語の調査法を紹介する。

2 レキシカルプロファイリングを活用した 実質語の類似表現調査

初級レベルでは語彙も文法も限られているため、実質語の類似表現よりはむしろ、「ようだ」と「らしい」、「～ば」と「～たら」、「～てから」と「～たあとで」など、文法に関わる機能語の使い分けが問題となる。しかし、中級以上

のレベルになると、多様な場面や多様な人間関係に応じた日本語の使い分けが必要となるため、機能語に加えて実質語の使い分けも大きな問題となる。また、初級段階ですでに学んだ語であっても、その語の多様な用法を新たに学ぶことが必要となり、その使い方や他の語との使い分けが問題となる。このようにレベルが進めば進むほど実質語の使い分けがますます重要なものとなるのだが、山内も指摘するように、満足できる記述のある辞書や参考書は限られており、教師自らがその使い分けを調べる力を身につけることが求められる。そこでこの節では、実質語のコロケーション調査法のひとつとして、レキシカルプロファイリングを利用した類似表現の調査を紹介する。

2.1 レキシカルプロファイリングとは

レキシカルプロファイリングとは、コーパスを利用して語の共起関係や文法的な振る舞いなどを調査した情報を集積し、その結果を統計的に処理した上で、その語の特徴的な振る舞いを提示するもので、日本語のコーパスを検索できるツールとしては、NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB) と NINJAL-LWP for TWC (NLT) の2つがある。『NLB』は国立国語研究所が構築した1億語の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』、『NLT』は筑波大学が構築した11億語の『筑波ウェブコーパス (TWC)』のオンライン検索ツールである。これらのツールでは、名詞・動詞・形容詞・連体詞・副詞の共起関係や文法的な振る舞いを網羅的に調べ、比較することができる。

2.2 『NLB』を使った実質語の類似表現調査

本稿でも、山内 (2013) が扱った「冷える」と「冷める」を対象として『NLB』を使った調査法を示すことにする。

まず、『NLB』のトップページから「検索を開始する」をクリックすると、見出し語検索画面に入る。そこで見出し語の入力欄に「冷える」と入力し、「絞り込み」をクリックすると「冷える」が選択され、図1の画面が表示される。その行の「冷える」の箇所をクリックすると、図2のように、「グループ別」の画面が表示される。この画面には「冷える」が名詞と助詞を伴った「…が冷える」「…は冷える」といったパターンや、名詞を修飾する「冷える+名詞」「冷



図1 NLBの見出し語検索画面



図2 「グループ別」画面

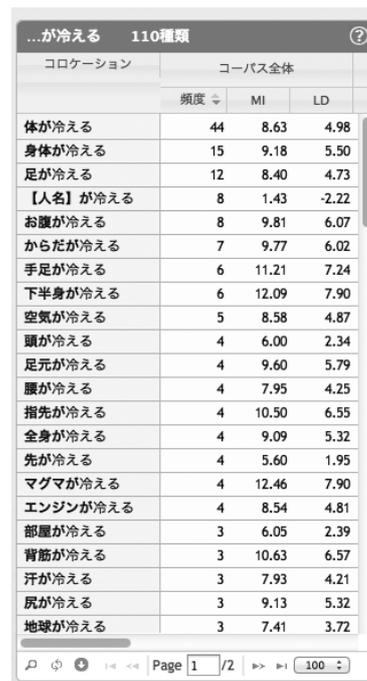


図3 「…が冷える」頻度順

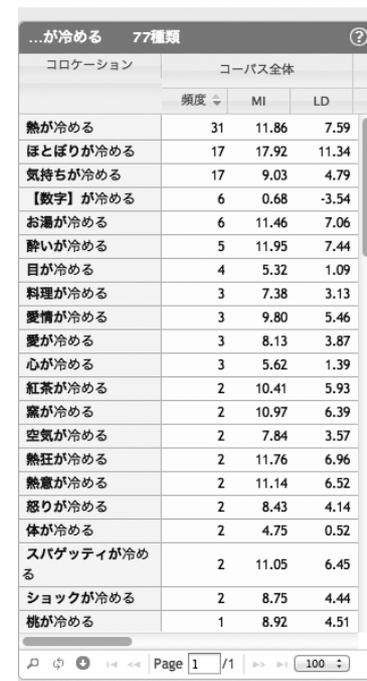


図4 「…が冷める」頻度順

えた+名詞」といったパターンなど、パターンごとの頻度が示されている。

2.2.1 「…が冷える」と「…が冷める」

手始めに、最も頻度の高い「…が冷える」のコロケーションを調べることからしよう。その箇所をクリックすると、図3のように、頻度の高い順にコロケーションが表示され、その右側に用例が示される。この画面を用いて、頻度順のコロケーションを観察し、「…が冷える」の特徴を探ることとする。

図3からは「体」「身体」「足」「お腹」「手足」「下半身」など身体やその一部を表す名詞との共起が多いことが分かる。身体以外の名詞では「空気」「マグマ」などが見られるが、ここに表示されている限り、全て具体物を表す名詞

と共に、物体の温度が下がることを表す。もっと下までスクロールすると、「精神」「気持ち」「愛情」など、抽象物を表す名詞も見られるが、総じて具体物を表す名詞と共に共起やすく、抽象物を表す名詞との共起はさほど多くない。

次に、同様の方法で、「冷める」を調べてみる。図4は「…が冷める」のコロケーションを頻度順に並べたものである。こちらのほうは、身体に関わる名詞として「目が冷める」があるが、用例を参照してみると、「目が覚める」の誤表記であることが分かる。ここに表示されている限りでは、そのほかに「体が冷める」があるのみで、「冷える」とは異なり、身体に関わる名詞との共起が少なく、その代わりに食べ物に関わる名詞が目につく。さらに、抽象物を表す名詞との共起は「冷える」より多く、「熱」「ほとぼり」「気持ち」「愛情」「熱

狂」「ショック」など多数見られる^[註1]。

2.2.2 具体物を表す名詞との共起

具体物を表す名詞と共起したとき、「冷える」も「冷める」も「物体の温度が下がる」という意味を表す点では共通している。しかし、「ものが冷える」と「ものが冷める」では微妙な意味の違いがある。そこで、ここでは山内にならって、どちらも使える用例とどちらか片方しか使えない用例を手がかりとして、意味の違いを考えることにする。

以下に『NLB』で検索した用例を示すが、下線部で先に示した語が用例で使われている語である。○は自然、×は不自然であることを表す。

①○「冷える」、○「冷める」

(1) 4の桃が冷めたら／冷えたら、くし形に切って皿に盛りつける。

(ル・コルドンブルーパリの校編『ル・コルドンブルーパリの校のマルシェノート』)

(2) つまり体が冷めにくく／冷えにくくなるということです。

(Yahoo!知恵袋)

②○「冷える」、×「冷める」

(3) 水のなかを歩くとどうしてもからだが冷える／×冷めるため、真夏でもあたたかいものが食べたくなります。

(越谷英雄『はじめてのリバー・トレッキング』)

(4) 空気がきーんと冷えた／×冷めた夜ふけに、ポンちゃんがふと目をさますと、となりのベッドで母さまが体を起こして、顔をしかめていました。

(甲斐裕美『ゆたかな命のために』)

③×「冷える」、○「冷める」

(5) お料理が冷めない／×冷えないように、お皿の下に電熱器のようなものがありました。

(Yahoo!ブログ)

(6) お風呂はお湯が冷めない／×冷えないうちに間隔をおかずに入るようにして、追い焚きをしないようにしましょう。

(広報南アルプス)

どちらも使える (1) は、料理の作り方の文である。この料理は、煮て熱く

なった桃の温度が下がってから形を整えるものなので「冷める」を使っている。一方、「冷える」のほうは、元々熱くない桃をさらに冷たくして作る料理となり、料理の手順が違ってくる。この例から明らかなように、「冷える」の場合は、「元々の温度からそれより低い温度への変化」、「冷める」の場合は、「高い温度から元々の温度への変化」を表すという違いがある。つまり、具体物を表す名詞と共起した場合、「冷える」も「冷める」も、「物体の温度が下がる」という共通した意味を表すが、「冷える」は「元々の温度からさらに下がる」、「冷める」は「元々の温度へ下がる」という異なった意味を表す。

2.2.3 抽象物を表す名詞との共起

次に、「冷える」と「冷める」が抽象物を表す名詞と共起した場合を考える。すでに述べたように、「冷める」のほうは抽象物を表す名詞と共起することが多いが、「冷える」が抽象物を表す名詞と共起することはさほど多くない。そこで、両者とも共起しうる「気持ち」や「愛」など、心理・感情を表す名詞と「間」「間柄」など関係性を表す名詞の用例を取り上げて、互いに言い換えができるかどうかを試してみよう。今回も用例に使われた語の方を先に表示する。

①○「冷える」、○「冷める」

(7) 会に対する私の気持ちが急速に冷えて／冷めていくのを、もうどうすることもできなくなっていた。

(みみより会編集委員会編『可能性に挑んだ聴覚障害者』)

(8) 夫婦の愛が冷めて／冷えてお金の為だけのつながりになってしまってもとにかく両親さえ揃ってれば子供は幸せ？

(Yahoo!知恵袋)

(9) 妹との間柄が急速に冷えて／冷めてきたレオは、家を出て、イタリアに去ってゆく。

(金関寿夫『現代芸術のエポック・エロイク』)

②○「冷える」、×「冷める」

該当例なし

③×「冷える」、○「冷める」

(10) 60年安保の熱狂が冷めて／×冷えてから社会に出たものの、これといった職は見つからなかった。

(大住昭『アジア日本人群像』)

- (11) 帰国後のパーティは挙式の感激が冷めない／×冷えないうちに開くのがベターで、一般には帰国後、1週間以内に開くカップルが多いようです。
(小林淳『海外オリジナルウェディング』)

「気持ち」や「愛」や「間柄」は「冷える」とも「冷める」とも共起する。しかし、「気持ち／愛／間柄が冷える」と「気持ち／愛／間柄が冷める」とでは、意味に微妙な違いがある。具体物を表す名詞を伴ったとき、「冷える」は「元々の温度からさらに下がる」こと、「冷める」は「元々の温度へと下がる」ことを表すという違いがあった。この違いが抽象物を表す名詞を伴ったときにも影響し、「冷える」は「相手に対する感情や関係が悪化する」ことを表すのに対し、「冷める」は「親愛の気持ちや関係が薄れること」や「高ぶった感情が静まること」を表すようになる。③に示した例で「冷える」が使いにくいのも、「熱狂」「感激」といった激しい感情を表す名詞が用いられているためで、「高ぶった感情が静まること」を表す「冷める」との共起の方がふさわしい。山内はこの両者の違いを、「元々の状態がさらに悪化する」と「高いレベルになった状態が元々の状態に戻る」とまとめている。

なお、②に関して、『NLB』には該当例がなかったが、『NLT』には、経済状況を表す名詞を伴う次の例があった。これらも「元々の状態から悪化する」という意味を表している。

- (12) 景気が冷えれば／×冷めれば、税収は落ちます。
(<http://oshiete.goone.jp/qa/6787496.html>)
- (13) 現在のデフレは国際的な競争に晒されていること、また国内では少子化人口減などでマーケットが冷えて／×冷めているからでしょう。
(http://kiyotani.at.wery.info/201001/article_5.html)

2.2.4 まとめ

以上のまとめとして、「冷える」と「冷める」の意味記述、コーパスを参照して筆者が作った用例、および、それぞれに特有の慣用的な表現を示す。

《冷える》

- ①具体物を表す名詞と共起して、「元々の温度からさらに下がる」という意味を表す。
- ・風呂に入って冷えた体を温める。
 - ・マグマは高温だが、冷えると岩石になる。
- ②抽象物を表す名詞と共起して、「元々の状態から悪化する」という意味を表す。
- ・二人の関係が急速に冷えてきている。
 - ・増税すれば、ますます景気が冷えるだろう。
- 慣用表現：肝が冷える、背筋が冷える

《冷める》

- ①具体物を表す名詞と共起して、「高い温度から元々の温度へ下がる」という意味を表す。
- ・料理が冷めないうちに食べましょう。
 - ・お風呂のお湯が冷めてしまった。
- ②抽象物を表す名詞と共起して、「高いレベルになった状態が元々の状態に戻る」という意味を表す。
- ・ひとときの熱狂が冷めて、町はふたたび静かになった。
 - ・歳を取っても情熱が冷めることなく、仕事を続けている。
- 慣用表現：ほとぼりが冷める、酔いが冷める、混乱が冷めやらぬ

3 オンラインコンコーダンスを活用した機能語の類似表現調査

レキシカルプロファイリングを利用すると、コロケーションの頻度や統計値を網羅的に、しかも瞬時に手に入れることができるので、調査の手間が大幅に軽減できる。しかし、『NLB』や『NLT』では実質語しか検索できないため、機能語の調査には使えない。そこで、この節ではオンラインコンコーダンスの『中納言』を活用して機能語を調査する方法を紹介する。

3.1 コンコーダンスとは

コンコーダンスとは、コーパスから指定した語を検索し、その語を含む用例を一覧表示するコーパス検索ツールのことを言う^[註2]。『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』の検索ツールとしては、『少納言』と『中納言』がオンラインで公開されている。『少納言』はユーザー登録の必要がなく、使用法も単純で、初心者でも気軽に検索ができるが、文字列検索しかできないため、柔軟な検索ができないという問題点がある。特に、機能語の場合、例えば、希望を表す助動詞の「～たい」を調べようと思っても、『少納言』で調べると、「楽しかったみたい」「いったい、なんですか」「たいへんです」などの用例も拾ってしまう。それに対して、『中納言』は、品詞や語形などの形態論情報や共起条件の指定ができるので、「動詞」の後に「助動詞タイ」が続くという指定をすればその用例が網羅的に検索できるし、「～たい」の各種の活用形（「～たかっ」「～たく」「～たけれ」など）を含んだ用例も1回の操作で一挙に検索することができる。図5は、キーの品詞を動詞に指定し、その後続く語を助動詞の「タイ」に指定した画面である^[註3]。ユーザー登録さえすればオンラインでいつでも利用することができるので、使い方は『少納言』より複雑になるが、大変便利なツールである。そこで以下は、『中納言』を用いて機能語を検索する方法について紹介する。

短単位検索

前方共起条件の追加

キー (---) キーを未指定

品詞 の 大分類 が 助動詞 短単位の条件の追加

後方共起1 (キーから 1) キーと結合して表示

品詞 の 大分類 が 助動詞

AND 語彙素読み が タイ 短単位の条件の追加

後方共起条件の追加

図5 「～たい」の検索画面

3.2 『中納言』の使い方

『中納言』を使った機能語の類似表現研究の事例として、砂川 (2013) と砂川 (2014) の例を使い、『中納言』の使い方を説明する。上記の研究は、中級レベル以降に急速に増えてくる複合辞の類似表現を扱ったもので、具体的には次の用例に出てくる下線部の使い分けについて論じている。

- (14) メディアの発達につれてスポーツが普及していった。
- (15) 加齢に従って記憶は減退する。
- (16) 年金額は物価の上昇に応じて増加する。

これらは「XにつれてY」「XにつれY」「XにつれましてY」などの形で、Xの事態が進展するのに連動してYの事態も進展することを表す。これらの用例をコーパスから検索する場合、次のようないくつかの問題に直面する。

まず、「家来を供に連れて歩く」「命令に従って行動した」「呼びかけに応じてくれない」のような本動詞として使われている用例は排除したいのだが、検索ツールはそれができないので、検索によって得られた大量の用例一覧から、手作業で不要な用例を排除しなければならない。また、『中納言』の特徴を理解していないと厳密な調査ができないという問題もある。前者の問題については、問題の動詞が主文の述語になれるかどうか、否定、受け身、可能など動詞のもつカテゴリーを失っていないかどうかなどの基準を立てて、不要な用例を排除することになる。この点についての詳しいことは砂川 (2013) を参照していただくこととし、ここでは後者の問題について述べることにする。

3.2.1 短単位検索と長単位検索

『中納言』は「短単位検索」「長単位検索」「文字列検索」の3つの方法で検索ができる。このうち文字列検索は、すでに述べたように、柔軟な検索ができないため、機能語の検索にはあまり適していない。短単位検索と長単位検索の違いは、例えば「日本語」という語について、短単位検索では、「日本」と「語」がそれぞれ別の単位として認定されるため、「日本語」と指定してもヒットし

ない。そのため、長単位で「日本語」と指定するか、短単位でキーを「日本」、その後続く語を「語」と指定して検索する必要がある（小木曾・中村 2013）。

短単位検索と長単位検索で気をつけなければならないのは、品詞を指定した場合の検索結果に違いが生じることがあるという点である。例えば「高齢化」という名詞の場合、『中納言』の短単位検索では、「高齢」と「化」の2語に分割され、「化」が接尾辞と認定されるので、「名詞」の後に「に従って」が続くという条件で検索しても、「高齢化に従って」という用例はヒットしない。一方、長単位検索では、「高齢化」を一語の名詞と認めるため、名詞を検索条件に指定した場合は、長単位検索の方がヒット数が多くなる^[注4]。

同様の誤差は動詞を指定した場合にも認められる。長単位検索の場合、「進んでくる」が「進む」と「てくる」という2語に分割され、「てくる」が助動詞と認定される。そのため、「動詞」の後に「に従って」が続くという条件で検索しても「進んでくるに従って」という用例はヒットしない。短単位検索であれば、「進む」「て」「くる」の3語に分割し、「くる」を動詞と認定するため、動詞を検索条件に指定した場合は、短単位検索の方がヒット数が多くなる。

このような微妙な違いがあるので、研究論文を書く上ではできる限り正確に用例を検索できるよう、『中納言』の特徴を慎重に吟味し、検索ミスや検索漏れがないように最善を尽くすべきである。しかし、おおよその見当をつけるためにざっと調査するという目的であれば、この種の誤差にあまり神経質にならずに、短単位での調査をするだけで充分だろう。以下においては、「～に従って」という複合辞を短単位検索で調査する方法を示す。

3.2.2 複合辞の検索法

「～に従って」という複合辞は、「～に従い」「～に従いまして」などの形でも用いられるし、ひらがなだけで表記される場合もある。これらを一括して検索する場合、表1のように検索条件を指定する。図6は「に従って」が名詞に付く用例の検索画面である。

この方法では「命令に従った」「ルールに従わない」などの本動詞の用例も多数ヒットするし、形態素解析の間違いなどによるゴミもヒットする。そこで、検索結果のデータをダウンロードし、エクセルで一覧表示させてから不要

表1 「に従って」の検索方法

共起条件	名詞につく場合	動詞につく場合
キー	品詞・大分類・名詞	品詞・大分類・動詞
後方共起1（キーから1語）	書字出現形・「に」	
後方共起2（キーから2語）	語彙素読み・「シタガウ」	

短単位検索

図6 「名詞+に従って」の検索画面

な用例を手作業で取り除くという作業が必要となる。この手作業に非常に大きな手間がかかるため、検索するサブコーパスを指定して検索対象のコーパスを小さくしたり、ヒットした用例一覧からランダムに用例数を絞り込んだりしてから、手作業に進むという方法もある。

3.3 『中納言』を使った機能語の研究事例

砂川 (2013)、砂川 (2014) では、BCCWJの全サブコーパスを対象に、動詞に付く場合は短単位検索、名詞に付く場合は長単位検索によって検索し、手作業で本動詞の用例やゴミを取り除いて、複合辞ニツレテ、ニシタガッテ、ニオウ

ジテ^[註5]の用例一覧を作成した。

表2は接続のタイプ別に複合辞の用例数を示したものである。これによると、ニツレテとニシタガッテの場合は、名詞接続も動詞接続も、ある程度の用例数が得られている。一方、ニオウジテは、名詞接続が4,021例なのに対し、動詞接続はわずか6例である。つまり、ニオウジテは、名詞に付くのが普通で、動詞には付きにくいことが分かる。そこで、以下においては、名詞に付く場合のみを対象として、ニツレテ、ニシタガッテ、ニオウジテの使い分けについて考察する。

表2 複合辞：接続のタイプ別用例数

接続のタイプ	用例数
名詞+ニツレテ	240
動詞+ニツレテ	2,305
名詞+ニシタガッテ	70
動詞+ニシタガッテ	616
名詞+ニオウジテ	4,021
動詞+ニオウジテ	6

表3 直前の名詞の頻度：ニツレテ/ニシタガッテ/ニオウジテ

名詞+ニツレテ			名詞+ニシタガッテ			名詞+ニオウジテ		
順位	名詞	頻度	順位	名詞	頻度	順位	名詞	頻度
1	成長	20	1	成長	10	1	必要	902
2	動き	11	2	経過	6	2	状況	211
3	進展	10	3	動き	5	3	区分	94
3	変化	10	3	変化	5	4	実情	77
5	経過	9	5	拡大	3	5	程度	76
6	進行	8	5	形	3	6	目的	68
6	世	8	5	進展	3	7	所得	63
6	増加	8	5	推移	3	7	能力	63
6	発展	8	9	過程	2	9	変化	54
10	拡大	7	9	差	2	9	特性	54
10	高まり	7	9	上昇	2	11	用途	43
12	加齢	5	9	進歩	2	12	種類	34
12	歌	5	9	流れ	2	13	場合	33
12	発達	5	9	能力	2	14	実態	31
15	音	4	9	年齢	2	15	ニーズ	30
15	進歩	4	15	花期	1	16	年齢	26
17	上昇	3	15	角度	1	17	規模	25
17	成熟	3	15	加齢	1	18	好み	23
17	普及	3	15	雁行型発展	1	18	時	23
17	勃興	3	15	建設	1	20	声	21

3.3.1 直前の名詞の頻度

まずは、ニツレテ、ニシタガッテ、ニオウジテの直前に来る名詞の頻度順上位20個までを表3に示す。

表3の網掛けは当該の複合辞以外の複合辞にも共通して見られる名詞である。ここに表示された名詞から以下のことが分かる。

- ①ニツレテとニシタガッテは互いに共通する名詞が多い。これらは「成長」「動き」「変化」など、何らかの変化や動きを表す名詞である。
- ②ニオウジテは変化や動きを表す名詞が少なく、「必要」「状況」「区分」など変化や動きと関わりのない名詞が多い。これらは多様な異なりの存在を含意している。
- ③ニオウジテは、ニツレテと共通するのが「変化」の1語、ニシタガッテと共通するのが「変化」「能力」「年齢」の3語だけである。

以上のことから、ニツレテとニシタガッテは共通する用法が多いが、ニオウジテはそうではないことが予想される。そこでまず、ニツレテとニシタガッテの用例を観察してみることにする。

3.3.2 ニツレテとニシタガッテの用法

両者とも、典型的な用法は、連動するXとYの表す事態が、それぞれ時間軸に沿った何らかの変化を表すものである。

- (17) 表層胞の大きさと数は卵母細胞の成長につれて増加するが、魚種によって差が認められる。
(岩松鷹司『魚類の受精』)

(18) 動物の顔は、成長に従って目から下の部分が咀嚼の必要と共に発達してきて大人の顔に変わってくる。(南千代『夢みるエゴイストたち』)

これらは、Xの変化に連動する形でYも変化することを表すが、XとYのどちらも時間軸に沿って一方向的に進む変化を表している。これらの用法を「一方向的な変化」と名づけておく。

次に、頻度が少ないことから典型から外れた周辺的な用法であると考えられる用例を挙げる。

(19) 事件の発生につれて急速に断片的に報道する日刊紙に対し、(以下省略)
(塩澤実信『平成の大横綱「貴乃花」伝説 花田家三代血の証明』)

(20) 敵の動きに従って変転する新陰流の極意 (須賀しのぶ『虚剣』)

(19) は事件が発生するたびに断片的な報道を繰り返すことを続けるという意味で、「繰り返しの継続」を表している。(20) は敵の多様な動きに合わせて多用に変化するという意味で、「多方向的な変化」を表している。

以上、ニツレテの典型的な用法として「一方向的な変化」、周辺的な用法として「繰り返しの継続」と「多方向的な変化」を挙げた。これらはいずれも「時間軸に沿った進展」を表す用法である。

このように、ニツレテとニシタガッテは、典型的な用法も周辺的な用法も「時間軸に沿った進展」を表しており、以上に示した用例は、ニツレテを使ってもニシタガッテを使っても、意味に大きな違いは生じない。その一方で、互いに言い換えられない次のような場合もある。

- ①「歌は世につれ世は歌につれ」「日につれ世につれ」などニツレテの慣用的な用法はニシタガッテに言い換えられない。
- ②「梅の匂いにつれて寂しさが募ってくる」のように、知覚で感知できるものを表す名詞(匂い・音など)と共に用いられ、その発生に伴って生起する変化を表すニツレテの用法はニシタガッテに言い換えられない。
- ③「体は年齢に従って変化する」「求められる能力に従って形状も変化する」

などで用いられている「年齢」や「能力」という名詞は、直接的には「変化」を表していないが「変化」を含意している。このように「変化」が直接表されていない名詞が用いられた場合はニツレテに言い換えにくい。

以上の①は明らかに慣用的な用法だが、②も限られた名詞としか共起しないので、これも慣用的な用法と言ってよい。③は「一方向的な変化」や「多方向的な変化」を表す用法であるが、次節で示すニオウジテの「様々な状況への適応」につながる例である。

3.3.3 ニオウジテの用法

ニツレテとニシタガッテは、典型的な用法も周辺的な用法も「時間軸に沿った進展」を表すものであった。一方、ニオウジテの典型的な用法は、「時間軸に沿った進展」とは関わらない次のようなものである。

- (21) プロは、ホールの状況、風向きなどで、必要に応じて弾道を打ち分けます。(塩原義雄『週刊ポスト』)
- (22) それぞれを、相手によって使い分けるのではなく、状況に応じてきちんと表現したい。(実著者不明『ダメなママでもいいじゃない』)
- (23) すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。(古田足日『宿題ひきうけ株式会社』)

(21) と (22) は様々に異なる状況への対処、(23) は異なる状況に適応して生起する事態を表している。ニオウジテの最も典型的な例は (21) と (22) のようにYが意志的な行為を表すものであるが、ここではYが非意志的な事態を表す (23) の例も含めて「様々な状況への適応」と呼ぶことにする。このような用法は、ニツレテやニシタガッテに言い換えられないものがほとんどである。しかし、共起する名詞が、「能力」のように「変化」を含意するものである場合、ニシタガッテに言い換えられることがある。

- (24) すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に従って、ひと

しく教育を受ける権利を有する。

前節で述べたように、ニシタガッテとニツレテは、典型的にも周地的にも「時間軸に沿った進展」を表すという大きな共通点がある。しかし、ニシタガッテの場合、「従う」という本動詞が持つ「準拠する」という意味が残っている。そのため、「様々な状況に準拠して事態に対処する」や「様々な状況に準拠して事態が生起する」という意味を表すことが可能となり、ニオウジテと同様の「様々な状況への適応」を表し得る。この点で、ニシタガッテはニツレテと異なっている。

一方、ニオウジテの場合は、「様々な状況への適応」を表す典型的な用法がほとんどである。しかし、ごくまれに、XやYの表す事態に「時間軸に沿った進展」の意味が表される次のような用例が見いだせる。

(25) 入社して最初の数年間の給料はかなり低いが、社員は終身雇用で、しかも年齢に応じて給料が上がっていくことを知っているので不満は言わない。

(エズラ・F・ヴォーゲル (著) 木本彰子 (訳) 『ジャパニアズナンバーワン』)

(26) さらに、使用済燃料等の核燃料物質等の輸送については、原子力発電の開発の進展に応じて、今後ともますます拡大することが予想される。

(原子力白書)

このような用例がニツレテやニシタガッテとの言い換えを可能にする「時間軸に沿った進展」を表すものである。しかし、頻度としては少ない用法であるため、ニオウジテの周地的な用法として位置づけられる。

3.3.4 まとめ

以上に述べたニツレテ、ニシタガッテ、ニオウジテの典型的な用法と周地的な用法、および、それぞれの用法の用例（作例）を、表4にまとめて示す。

日本語教育で扱う場合は、これらの複合辞の似通った用法を取り上げてその使い分けをこと細かく説明することよりは、典型的な用法に着目して、それぞ

れの似ている点と異なる点を際立たせて説明した方がよい。すなわち、ニツレテとニシタガッテは典型的に同じ用法を持っており、その用法についてはどちらを使っても同じであること、一方、ニオウジテは典型的にはニツレテやニシタガッテと違う用法であること、この2点を踏まえ、それぞれの典型的な用法の使い方をしっかり習得できるような指導を行うべきで、たまにしか用いられない周地的な用法を取り上げて、それらの微妙な使い分けを理解させようとしても、さほど大きな教育効果は見込めないのではないかと思われる。

表4 まとめ：ニツレテ、ニシタガッテ、ニオウジテの用法

	典型的な用法	周地的な用法	
ニツレテ	時間軸に沿った進展 (一方向) 成長につれてサイズが変わってくる。 社会の発展に従って問題が多様化する。	時間軸に沿った進展 (多方向/繰り返し) 体の動きにつれて振動する。 時の経過に従って増減する。	慣用的な用法 歌は世につれ世は歌につれ。 笛の音につれて動く。
ニシタガッテ			様々な状況への適応 能力に従って指導法を変える。
ニオウジテ	様々な状況への適応 必要に応じて使い分ける。 能力に応じて賃金が変わる。	時間軸に沿った進展 (一方向/多方向/繰り返し) 年齢に応じて考え方が複雑になる。	

4 おわりに

以上、日本語教師が、自分の力で類似表現の使い分けを調べるためのコーパス検索ツールの使い方と、コーパスを使った類似表現の研究事例を紹介した。今回紹介したツールは、初心者でも比較的簡単に使える手軽なツールであるが、それぞれのツールやコーパスの特徴を充分に知っておかないと、誤ったり偏ったりした検索結果となり、調査の目的が果たせないだけでなく、間違った結論を導く恐れもある(李・石川・砂川2012)。また、今回紹介したコーパスの使い方は、調査者の観察を助けるためのツールとしての使い方に過ぎないことにも留意する必要がある。コーパスに頼れば何かが分かるというのは間違いで、

調査者の注意深い観察力や、確かな洞察力と分析力が伴わなければ実りのある結果は導き出せない。とはいえ、まずはコーパスや検索ツールに触れてみなければ、コーパスの特徴も危険性も、よりよい活用法も探り出せないことになる。以上に述べた注意事項をわきまえた上で、臆せずにコーパスを活用し、試行錯誤を繰り返してほしい。

〈筑波大学〉

注

- [注1] …… これと同様の観察は、今回行った「…が冷える／…が冷める」のパターンだけでなく、「冷えた＋名詞／冷めた＋名詞」のパターンを使っても行うことができる。
- [注2] …… 指定語の検索と用例の一覧表示を行う単機能コンコーダの他に、コロケーション検索、単語頻度検索、特徴語検索など各種の検索をパッケージ化した多機能コンコーダがある（石川 2012）。『中納言』は単機能コンコーダである。
- [注3] …… 活用語の活用形を同時に検索するには、図5にある「語彙素読み」か、「語彙素」を指定する。「語彙素読み」はカタカナ、「語彙素」は漢字（「～たい」のように漢字がない場合はひらがな）で入力する。「語彙素読み」は、異なる表記（「よむ」「読む」「詠む」など）を同時に検索するのにも使える。
- [注4] …… 長単位検索を行う場合、複合辞によって1語と認定されるもの（例えば「につれて」）とそうでないもの（例えば「に従って」）があるので、その点にも注意が必要である。また、1語と認定される「につれて」のような複合辞でも、用例によっては、複数の語（「に」と「つれる」と「て」）に分割されていることがあるので、この点についても注意が必要である。
- [注5] …… 以下では、「につれ」「につれて」「につれまして」やこれらの漢字表記などのバリエーションを代表する形としてニツレテ、ニシタガッテ、ニオウジテという用語を使う。

参考文献

- 石川慎一郎（2012）『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房
- 小木曾智信・中村壮範（2013）「付録A コーパス検索ツール（1）『中納言』の使い方」前川喜久雄（編）『コーパス入門』pp.159-169. 朝倉書店
- 砂川有里子（2013）「コーパスを活用した類義語研究—複合辞「ニツレテ」と「ニシタガッテ」—」藤田保幸（編）『形式語研究論集』pp.35-60. 和泉書院

- 砂川有里子（2014）「コーパスを活用した類義語分析—「連動的な変化の進展」を表す用法—」『日本語教育連絡会論文集Vol.26』pp.49-60. (<http://renrakukaigi.kenkenpa.net>)
- 山内博之（2013）「日本語教師の能力を高めるための類似表現研究」『日本語／日本語教育研究』4, pp.5-20.
- 李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子（2012）『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版

コーパス・ツール

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』（http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/）
- 国立国語研究所『少納言』（<http://www.kotonoha.gripj/shonagon/>）
- 国立国語研究所『中納言』（<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>）
- 国立国語研究所・Lago言語研究所『NINJAL-LWP for BCCWJ（NLB）』（<http://nlb.ninjal.ac.jp/>）
- 筑波大学・国立国語研究所・Lago言語研究所『NINJAL-LWP for TWC（NLT）』（<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>）

